

活力充實して、溢るゝが如く、盛に活動す、擬戰擬馬等を好み、はげしき勢を以てかけ廻る、又好みて相撲をとる、室内にありては、談話の時丈は、稍長時間に亘りても、静止して熱心に傾聴すれども、手技の時は唯短時間のみ熱心につとむれども、其後は左右を回顧し、手足の静止すると稀なり、行爲は無邪氣天真爛漫にして表裏なし時に随分亂暴なるをなせども、決して、惡意を含まず、從順にして能く命を守る然れども永く實行するを難し、此兒元來入園の初めに於ては頗る粗暴なるが上に、我儘不從順にして、保姆の言を重んぜず、何事も馬耳東風と聞き流す風ありき、要するに保姆に對して敬意なく、傍若無人の有様にて、自分が監督者の下に教育せられつゝあるを、知らざるものゝ如くなりき、仍て入園後

五十八
 第一着に、保姆の一度發したる命令は、動かす可らざるものなりと云ふを知らしめんとて、先づ一二の命令を固く實行せしめ、我儘を通ざしめざるを努めたり、彼は之によりて大打撃を受けしものゝ如く、幾分か苦痛を感じたるが如かりし、されど元來正直にして無邪氣なる性なるを以て、一度保姆の命令に従ふ可きものなるを悟りたる後は、急に變化して、以來大に改まれり、而して九月の中旬より、數名の教生、保育の任に當りしが、之に對しては、尙甚だ不從順なるを以て、教生は大にもてあまし之が取扱ひに困じ居たり、されど、教生も亦保姆が前期以來なし來りたると同の方法をとりたるを以て、漸次に命令に従ふ様になり、十一月中旬に至りては、總ての人に對して從順となり、尙良き方に向へり、されど前述

の如く實行をついぐるを難く、又禁止したるを再びなす事少なからず、之意志の弱きが故にして之が鍛錬に盡す能はざりしは遺憾なりき、従つて今も忍耐力に乏しく、何事にもあき易くして粗漏なり、又不規律不整頓にて、物品を濫費する傾向あり、これは特に家庭にありて注意あらまほしき處なり、活氣溢れて活潑なるにも係らず、案外小膽なれども又甚だ義侠心に富み、尙此頃は同組中なる弟を愛護す、組中第一の人望家にして、外遊の時等、他兒を指揮して遊ぶ、衆兒又喜びて之に従ふ、此の弟を愛するをや、人望を得るに至りし等の優しき心は、皆從順になりしより現はれし行爲にして、以前は全く亂暴にして、直ちに腕力を加へていぢむる故、皆畏れいたりしなり、諸心力の發達は、普通なれど、手指の不器用なる

と、性來の不規律と美的看念の缺乏とによりて、手技は拙なり」と。

右の如きは、純然たる多血質の兒童にして、子供としては、先づ正常なる即ち最も普通なるものなりと云ふ可し、斯の如き幼兒を有する父母は、其教育に關して充分の注意を拂ふの必要と價値とを有す、何となれば斯の如き幼兒こそ、教育の有無に因りて、其將來に大なる差異を生ずるものなればなり、

次に最も奇異に感ずるは、教育者の子弟に存外なる不良の兒童あるとなり、左に掲ぐるは其一なり
某男兒 父は市内小學校長 (本園幼兒)

執拗にして不從順、破壊的にして陰險、意地悪さは、此兒の特性なるが、前學年に於て、大に其傾きを滅し居たり、或は、大に矯正の功ありし

にやと、疑はれしに、夏休み後、再び急に、其缺點を表はし來れり、

又同組中には、幼児間にも、相當の制裁ありて、自然己れの我儘を振舞ふ能はざるより、退園後、附屬小學校の方に居る、姉の終業を待つ間、保姆の眼を離るゝを待ちて、他の組の幼児に向ひ、或は小學校の女兒に對して、窺に亂暴をなし、此等の兒をいぢめ泣かすこと屢なりき、こと能く訓戒せしより間もなく改りたり、されど此兒の缺點は未だ眞に矯正することを得ず、安心して獨り離し置く能はざるは遺憾なり、舉止活潑ならざるにはあらずれど規律的ならず、かけつゝ等は甚だ拙なり、眼光鋭く一種の光を放つ、他人の悪評をなすこと屢あり、其悪評も幼稚園にて交れる人々の悪評をなすにはあらず、家庭に於て交れる人々、

即ち、書生、自家に預れる人、及其等の人の家庭等につきて話す、其話す事項は幼児不相當の事多し、例へば誰某の親は甚だ吝嗇なりなどの類なり察するに家庭に於て大人の話すことを聞きて云ふものなる可し」と。

「僧侶の何とかに醫者の不養生」の諺に漏れずとは是では如何にも情なき心地す、是にて思ひ合すことあり、嘗て或人の云へるを聞くに、世にあはれなるは、牧師の家庭なり、彼等は外に於て、神に反對せる人々より、悪口雑言の限りを振りかけられ、能ふ限りの忍耐力を盡くして、家に歸り來るものなれば、家庭に於ける彼等は、外に於ける彼等とは、全然別人物となり、短氣慘酷思ふ様に荒れて、和樂温情など藥にしたくも得られず」と語れり、勿論、是は或少數の牧師に限れるには相違

なけれど、右の小學校長に比較して、思ひ當る節なきにわらず、述べて茲に來れば、讀者或は小學教員や教師など待遇薄くして生計裕かならざるより従つて子弟教育に盡くすの暇なきによるものならんと思はるゝものあらん然れど其は決して然らず、左に載する一篇を讀まば以て生計の程度は教育を左右する絶体の境界線にわらざることを知らん

某男兒 父は小さな薪炭小賣商 (分室幼兒) 正直にして従順に、温厚にして篤實なり、資性無邪氣にして廉恥心に富み、獨立心、忍耐力強し、其温かなる他愛的感情と、困難を忍びて事を成し遂げんとする強き意志とは、自ら其行爲を仁たらしめ、勇ならしむるが故に、自然同輩の敬愛を招くを見る、其友に交るや、信ありて情厚つく、他

兒の困難を見ては、衷心より氣の毒に感じ、力の限り之を救ふを常とす、又他兒の悪行を見ては、自ら不快禁する能はず、熱心に之に忠告す、然も人に忠告する丈の徳と力とを有するが故に衆兒の中に大なる人望を有せり、彼は統御的才に富むにはあらねと、實行を以て人を服し、陰然保姆を助けて、良感化を衆兒に及ぼしたる功は、頗る多とするに足る、實に末頼母しき優良なる幼兒なり、諸心力能く發達し、記憶力強く理性明晰、思想亦能く整頓せり、言語は低聲なれど明瞭にして能く語る、されど手先は頗る不器用にして畫方極めて拙、蓋し思想餘りありて筆動かざるものか、他の手技に於ても、工夫想像力の強き割合に、手に由れる發表の術之に伴はず、將來或は靜に考ふることの得意なる人物となる可きか」と。

子を持ちても、斯程に能く發達せるものを、得ること稀なるべし、其にしても彼兒の家庭や、其が父母の性行こそ、知らまはしきものなれ。

ヘルマン、ビーベル氏の調査によれば三四〇人の先天的白痴兒中

神經病の遺傳より來れるもの

一六〇人

父に飲酒の癖あるため

八二人

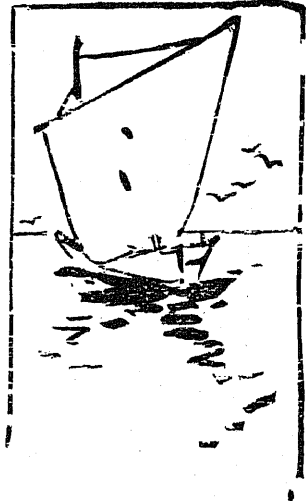
血族結婚より來れるもの

四三人

懷妊中母の疾患其

五五人

なりと云ふ飲酒の害恐る可し



◎質疑應答

子供を御持なさる母方及幼稚園は保母として御働きの諸姉方には、下の様な簡単な質疑應答が御便利だらうと思ふて今度此欄を設けました、家事及教育に關する御質問は何でも宜しい質問は端書にて表記は左の通りに願ひます、

女子高等師範學校附屬幼稚園内

フレール會編輯員中

「問」近日來大分寒さが強い様ですが幼稚園にはス

トープが御座いますか、